

『神』に無礼を働けば、自分にとって困る事も10倍、100倍と大きく返る

- 5 『神』に対する無礼とは、『神』を否定する発言や、交わした約束を破ることであり、また、『神』から戴いた御守護に対して感謝をしないことも含まれます。
例えば、『神』から戴いた御守護があるのに、それよりも、もっと幸せになる為に、“『神』よりも、もっと大事な事がある。”などと言って、離れてしまうことです。
- 10 人間の我がが強くなり過ぎると、『神』の御心が届かなくなるので、神が人間を思い通りに導けなくなります。
- この様に、『神』に無礼を働いて（『神』に嫌われる行為をして）『神』離れする者には、『神』の御守護が無くなります。
15 すると、霊障が復活したり、戒告役の「魔」によって罰を与えられ、自分の持っているカルマの何倍もの苦しみを受けることになるのです。
『神』は、『神』離れする者に苦しみを与えることによって、反省する機会を与え、軌道修正させようとなさるのです。

※【戒告役】《46P》にて解説

- 20 『神』も「神」も清き高き御神霊も、“大慈”と“大悲”を持ち合わせていらっしゃいますが、神離れする者に対しては放置するだけで、自ら直接戒告を与える訳ではありません。
戒告役の「魔」がその役割をなさいます。
裁く権限は、『神』だけがお持ちなので、もし、「神」や御神霊が自ら直接戒告を与えると、それがその神々の罪となります。

25 ※【男性の御神霊が犯した罪】《65P》にて解説

30 基本的には自分が『神』に気に入って戴ける様になる事が、幸せ一杯な家庭を築く為のコツなのです。
『神』は、気に入った者に対して、その方の住む地域、またはその方の居るところには、決して大きな災害を与えることはありません。
万が一その者のいる所で大きな事故や災害が起きたとしても、その者には“どんなに小さな破片ですら絶対にぶつけない”と約束して下さっています。

35